第2回高分子学会賞候補者選考経過

岡 小 天*

第1回高分子学会賞の受賞は昭和41年5月に行なわれた。昨昭和42年に第2回の受賞が行なわれる予定であったが、昨年は、国際高分子化学シンポジウムが一昨年日本で開催されたため、学会賞受賞候補者の推薦が定期的に遅れた関係もあって、2件の候補が推薦されたにとどまった。昭和42年3月18日に開かれた第80回理事会において、推薦された候補について受賞者の選考を実施するか否かについて慎重に審議した結果、推薦数が少なく、その中から学会賞の受賞候補者を選考することは、学会賞の趣旨からもむずかしい点があるので、昭和42年度の受賞は延期することになり、推薦された候補2件は次年度の候補として考えることになった。

その後、高分子学会賞受賞候補者推薦委員会（委員長和田野基副会長）を通じて、各方面から多数の推薦があり、昭和42年11月9日の第83回理事会において、学会賞受賞候補者の推薦が報告された。科学13件、技術4件であった。

そこで高分子学会賞受賞候補者選考委員会が開かれることになった。選考委員会の構成は次のとおりである。

委員長 岡 小天（副会長）

委員 石井義郎（名大工）	小野木重治（京大工）
川崎京市（合成ゴム）	鈴木 明（旭化成）
高島直一（三菱油化）	谷 久也（阪大理）
畑 敏雄（東工大）	古川淳二（京大工）
古谷正之（ゼオン）	松崎 啓（東大工）
右田伸彦（東大農）	岩柳茂夫（理研）
渡辺 茂（東大工）	

私が委員長になった関係で、この経過報告を記すことになった次第である。

選考委員会は2回開かれ、初回は昭和43年1月26日午後5時から高分子学会で開かれた。まず事務局より第1回学会賞受賞候補者選考経過の説明があった。次にまず、選考の基準をどこに置くべきかという原則論を討議すべきであるという意見が圧倒的に出て、これに大部

分の時間をかけた。

「高分子学会賞規程」の総則2)によれば、「学会賞は、高分子科学および技術に関する独創的かつきわめてすぐれた業績をあげたものに授与する」となっている。これを文字どおりにとれば、受賞者に対する条件は非常に幅広いものとなり、実際問題として受賞候補者の選考はほとんど不可能になる。それは選考の基準をどこにおくかによって選考結果は非常に異なるため、委員の意見は不統一のものとなり、それを形式的に投票で決してみても、そのような結果に意味があるとは考えにくいからである。

一口に高分子学会賞といっても、科学と技術とではいろいろな点で著しい差異があるので、選考基準を論ずるにあたり、科学と技術は別個に取り扱った。選考基準の原則をきわめて慎重かつ長時間にわたり審議した結果、多くの迂余曲折を経た後、選考委員会はついに一つの結論に到達したのである。すなわち、高分子学会賞(科学)の選考基準は、候補者の最近の業績のピークに置くべきである。これを裏返していえば、過去において高分子科学に関し独創的かつきわめてすぐれた業績を多くあげたいわゆる大物でも、それら業績の単なる Integration を受賞の基準とはしないということである。もちろんこのような場合でも、最近の業績にピークのある場合には当然受賞の対象となりうるのである。

歴史的にみると、高分子学会賞の規程が草案された初期のころには、比較的若い層を受賞の対象とすべきであるという考えが強かったようである。しかし、最終的な

* Syoten Oka 第2回高分子学会賞受賞候補者選考委員会委員長・本会名誉会員。東京都立大学教授・理博

規程にはこのような点は折込まれていない。今回の選考委員会でも、このような年令的な点は考慮しなかった。また候補者がすでに他の賞を得ているか否かも考慮しなかった。しかしまだ他の賞を得ていない将来性に富んだ候補的に対し、高分子学会がその最近の業績のピークを認め最初に賞を授与することは、学会のあり方として望ましいことと考える。

高分子学会賞（技術）の選考基準は、その技術の独創性と工業的成果に重点を置くべきである。したがって一般には周知の技術が対象になるが、独創的かつ工業的成果が将来十分期待される場合には、多少の差はあっても、周知の技術よりはこの方をとるという建前をとった。

さて選考方法としては、各候補者の推薦者に業績の説明を委嘱し、第2回目の選考委員会の席上でその説明を聞き、その後で委員の自由討論に移り、最後に従前どおりの投票方法により選考するということに決めた。

第2回目の選考委員会は昭和43年2月24日午後1時から高分子学会で開かれた。各説明者の説明は10分、討論5分という予定であったが、話す方も聞く方も熱が入り、また全部の説明終了後の委員どうしの自由討論もきわめて活発に行なわれたため、選考の終わったのは午後8時を過ぎていた。選考結果は次のようである。

科学 小島陽之助（阪大理）

「荷電膜における輸送現象の研究」

田畑米穂（東大工）

「放射線重合に関する研究」

林 晃一郎（京大工）

「放射線重合に関する研究」

技術 温品謙二，青木俊和，中西良治，横内 滯，

竹久善雄（東レ）

「ポリエステル連続重合技術の工業化の研究」

学会賞規程の総則 4) には、学会賞件数は毎年4件以内とするとあるだけで、科学、技術の件数にはふれていない。今回の選考経過報告が今後の高分子学会賞候補者の推薦ならびに選考に役立てば幸である。

高分子学会講演要旨集実費頒布

下記要旨集は残部が多少ございますのでおわけします。氏名・送付先を明記し、代金をそえて
高分子学会講演会係にお申込み下さい。

行	事	開催年月	大 き さ	印 刷 方 法	ページ数	頒価（送料とも）
第 13 回	回静電気研究発表会	43 年 6 月	B 5	オフセット	65	900 円
	講演要旨集					
第 17 回	高分子学会年次大会	5 月	B 5	〃	524	2500 円
	講演要旨集					
	重合反応工学講演会	5 月	B 5	〃	13	200 円
	レオロジー講座講演要旨集	5 月	B 5	〃	37	545 円
	重合反応工学討論会	1 月	B 5	〃	24	300 円
	M. Goodman 講演会	1 月	B 5	タ イ プ	15	200 円
	高分子機械材料セミナー	42 年 11 月	B 5	オフセット	70	700 円
	'67 年秋季印刷適性講演会	10 月	B 5	〃	22	500 円
第 16 回	レオロジー討論会	9 月	B 5	〃	192	1100 円
第 12 回	回静電気研究発表会	6 月	B 5	〃	78	955 円
	重合反応工学講演会	5 月	B 5	〃	12	125 円
	静電気講習会	4 月	B 5	〃	58	545 円
	紙の加工に関する講演会	3 月	B 5	〃	42	345 円